

ISSN 0289-8144



なきごえ

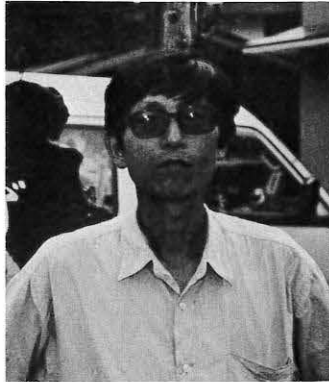


1989

10

大阪市
天王寺動物園協会

森 茂 明



動物となじみの
うすい都市生活者
が、家族ともども
山村にうつり住ん
で、かれこれ14年
になる。

京都府北桑田郡
美山町という山郭
である。山稜の東
を流る水が大堰

川となり、西に落つる水が由良川となる分水嶺にあ
って、前方に川を見すえ背戸に裏山をしょった斜面
には、遠いむかしの日本の山村をにわかに再興した
ほどにもみごとなかやぶき屋根が点在している。家
前の上由良川をほどなくさかのぼると、秘境の名で
きこえる「芦生原生林」がひろがる土地柄である。

ここで米をつくり、軒畑をたがやし、山宿をいと
なみながら、ほそぼそと身過ぎをしのできた。は
じめのうちはもの珍しさもてつだってか、眼にする
山の動物はおしなべて、いとおしさばかりが先立っ
た。サルサルの群れにであったの、昼間キツネを見かけ
ただの、車にはねられた小ダヌキダヌキのなきがらをトビ
がついばんでいたといった野性動物の目撃談が、家
族だんらんの自慢ばなしであった。

ところが、地面をたがやして3年4年とたつうち
に、土地のお百姓にかなわぬまでも、そこそこに米
の収量もう向きはじめ、畑の作物もちっとは実り
はじめるようになった。するといけない。この作物
をめぐる、まわりの動物と敵対しなければならな
くなった。農作物被害というかたちである。それ
までのうらわしいまでの動物との共存関係が、共通
のエサをめぐる対立関係へと悪化した。

例年うら盆が近づくと、村人総出でシシシシ囲いをする。
千数百枚のなみトタンで、村全域の田畑を家屋
をすっぽりかこい込む大がかりなものであるが、な
おも念の入った農家になると、屋敷まわりの軒畑に
もトタンの垣根をはりめぐらせる。これにもあきた
らず、さらに夜中には、ボロ布に燈油をしみこませ
た空缶に燈明をともし、犬までつないで万全を期す
のであるが、念のすぐるは無念としたもので、この
嚴重な二重の囲いであっても、のきなみトウモロコ
シがシシに荒される。ひたすら熟れるのをたのしみ
に待つことひさしいこどもたちのスイカ畑も、小さ
なうら成りをのこして、きれいさっぱりキツネとタ
ヌキに食われていた。口に入るべきはずのモロコシ
やスイカが横どりされたのだから、あしざまにこど
もたちが山の動物をののしるのは無理からぬことで、
こういうことがたびかさなると、邪気のないこども
といえども、山の動物にきつと敵意の眼を向けてし
まう。

秋が深まると、ツキノワグマが里山に降りてくる。
甘柿の幹のこずえに台座をかまえ、夜陰にまぎれて
柿を食う。かとおもうと、背戸の雑木林にサルが群
れでわたってきて、ホダ木ホダ木に生えた収穫前のシイタ
ケをもいでは悪戯する。

動物園の檻ではないが、トタン囲いの檻の中に入
っているのが人間で、檻の外から人間をじつとうか
がっているのが山の動物たちの方である。

「ここに人が住むずっと昔から、ここは、ずっと
動物たちの生棲地なまぢだものね」

こうものわりのよきそうなことをかみさんは言
って、こどもたちをなだめにかかるけれど、裏庭の
谷水につめたたく冷えたスイカのない年は、しんじつ、
こどもたちは浮かぬ顔である。

(民宿経営)

なきごえ10月号もくじ

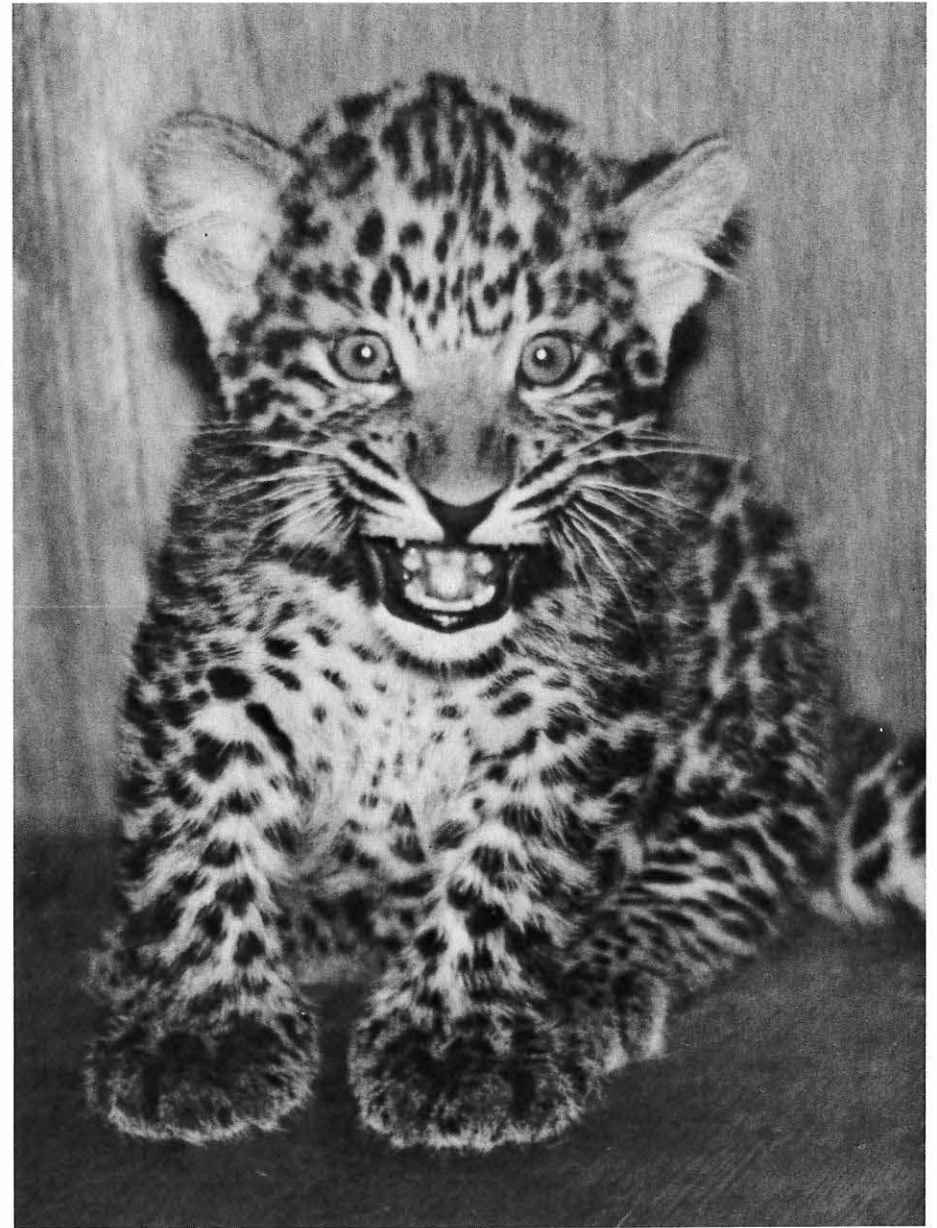
動物と私 2
“ヒョウの赤ちゃん” 3
動物園グラフ・動物園日記 4-5
公園紹介「名護自然動植物公園」 6-7
新人獣医奮闘記 8-9
動物なんでも相談室 10
動物園ニュース 11

表紙の写真説明

ラマ

南米のチリーやアルゼンチンの山岳地帯に生息
するのですが、現在は家畜として荷役や肉用と
して飼われています。繁殖も良好で毎年2・3
頭の赤ちゃんが生まれています。

(撮影：大川 光雄)



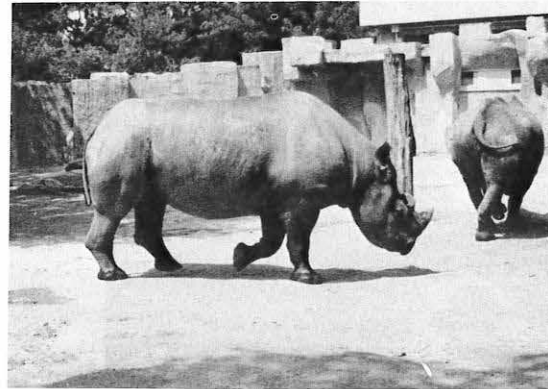
“ヒョウの赤ちゃん”

7月14日に生まれた赤ちゃん（おす）はその後の成育
も順調で、9月11日からガラス張りのヒョウ舎で親子を
展示しています。

いま、かわいい盛りで、母親のしっぽにとびついたりし
てじゃれています。

(撮影：井手 謙治)

動物園グラフ



お母さん(右)といっしょのサイタ

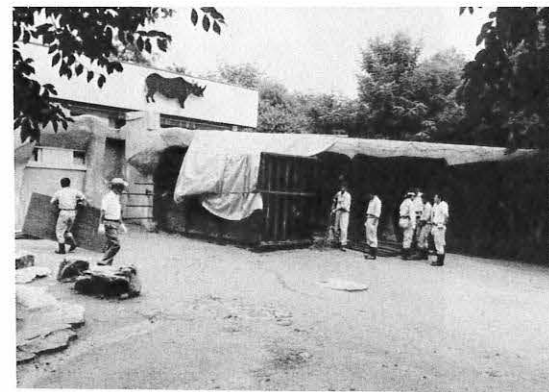


② 1週間あまり檻にならし、スムーズに出入りしているのを見はからってシャッターをしめる

“サイの搬出作戦”
クロサイを東山(名古屋市)、安佐(広島市)と天王寺の3園が協力して繁殖を計るため、まず当園のサイタ(6才)を名古屋に搬出する作業を8月21日に行いました。この模様を誌上でお知らせします。なお、安佐からは9月18日にトミー(7才)が入園しました。(飼育課:樽本 勲)



① カラ檻を動物の出入口に据付ける。空でも1トン以上ある丈夫な鉄檻はクレーンの力をかりる



③ いよいよ檻の前板をあてがい引きだす作業に入る

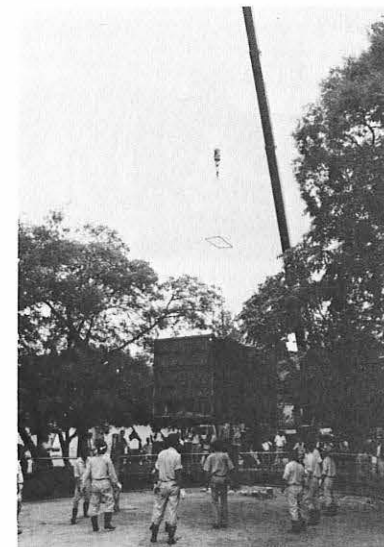
7・8月の動物園日記

- 7/28. ニホンジカの子が1頭生まれました。保護で元気を回復した野鳥たちの自然復帰を大阪府能勢方面にて行いました。ホッキョクグマに氷柱をプレゼントしました。例年“大暑の日”にしているのですが今年は“土用丑の日”に行いました。
- 7/30. ジャガーが交尾しました。裂創で隔離治療中のカリフォルニアアシカ“純一”の手術縫合部の抜糸を行いました。
- 7/30. 本年6頭目のブラックバックが生まれました。

- 8/1. 本年7頭目のニホンジカが生まれました。
- 8/2. コアラ3頭の体重測定を実施しました。
- 8/3. 日光浴のため、アルダブラゾウガメ1頭、ヒョウモンガメ3頭を爬虫類舎から屋外展示場へ移動させました。
- 8/5. シュバシコウ1羽を福知山の動物園に譲渡しました。
- 8/6. 保護したアブラコウモリを人工哺育中です。
- 8/7. コアラ3頭のペットネームが決まりました。
- 8/10. ニホンジカが1頭生まれました。
- 8/13. 40年間飼育されてきたミシシッピーワニが老衰で死亡しました。コアラのペットネーム発表式が開催されま



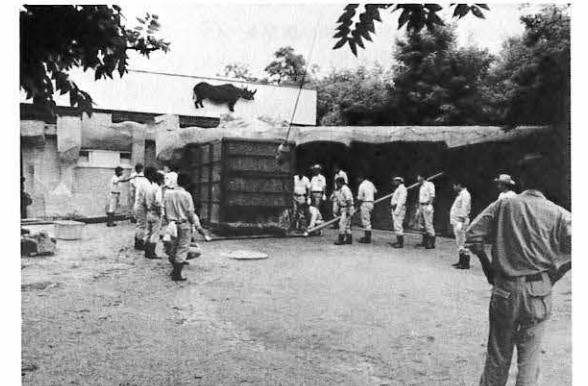
④ お尻側のパイプと鉄板をあてる



⑦ 飼育係が見守るなか高かつり上げられていく

⑧ 無事トラックの荷台にサイタは割りと落ち着いていて一同ホッとする

- した。受賞者にはコアラの大きなぬいぐるみを贈りました。クロサイのオスの搬出のため捕獲輸送オリを設置しました。
- 8/16. ブラックバックの子が1頭生まれました。ハイロカンガルーの子供が母親の袋(育児のう)よりはじめて顔を出しました。
- 8/17. アミメキリンの“サキコ”が発情しました。コアラのオス“メル”の体重測定を行いました。
- 8/18. ブラックバックが1頭生まれました。
- 8/20. 保護で元気をとり戻したアオバズクを自然復帰させました。クロサイのオスの捕獲の事前打合せ会議を



⑤ クレーンでそろそろ前に引き出してつり上げやすい位置に移動させる



⑥ 地上からつり上げ開始 檻が水平か緊張の一瞬



- 開きました。第52回動物のお話とスライドの会「コアラのお話」を開催しました。
- 8/21. クロサイのオス“サイ太”を捕獲し、無事名古屋市東山動物園に送りました。
- 8/22. コアラの子“テラ”が発情し、夕刻にテラとオス“メル”が共に鳴きました。
- 8/23. 動物舎の建設のため、タヌキほか4種の小型動物を一時収容舎へ移動させました。アジアゾウの春子の右側頭腺から分泌物を認めました。
- 8/24. 夜間に落雷と豪雨があり、全動物舎の保守点検を行いました。
- 8/26. エランドのレオの出産が近いようです。

名護自然動植物公園部長 石井 力
まず最初に、本園の生い立ちについて少し触れさせていただきます。

沖縄北部地域はやんばる(山原)と呼ばれ、まだまだ未開発のエリアが大変に多く、亜熱帯的自然の美しさを随所に残しているところ。北部の中心地である名護市の郊外に、亜熱帯海洋性の気象条件を活かし、ユニークな見せ方を取り入れた、欧米諸国にも類を見ないような動植物園を建設しようと、沖縄県、名護市をはじめ地元企業と勸進生物学研究所が出資し、昭和60年1月に経営母体である沖縄北部地域開発研究センターが設立されました。公園建設は私共の園長、東京農大名譽教授で勸進生物学研究所の所長でもある近藤典生博士の企画指導により、以下のコンセプトのもとにはじめられました。

- 1) 亜熱帯海洋性の自然環境を活かし、残された秘境を造成、再現し、生態を示しうるような動植物の展示を行うことによって、生物学的社会教育や研究に役立て、かつ沖縄の観光施設としても価値あるものとする。
 - 2) 自然破壊が急速に進むなか、生物学的な見地から動・植物と人類の共存の道を探る場としての役割を果たしていく。
 - 3) 新しい資源生物を探索しながら、沖縄における生物資源生産のシステム化の基礎となる実験をも組み込んでいく。
- こうして、昭和62年12月11日に総面積約25haの新しい施設が誕生したのです。

さて、次に概要について述べますと、本園は、地域による生物相の違いや植生景観、および種類の特殊性を楽しみながら理解していただけるようつくってあります。単に珍しく美しい動植物を集めてあるだけでなく、それら種類をできる限り地域別にゾーニングし、同じ地域の動物と植物を組合せ、鳥類などは樹上、地上、水辺と生活の場を異にする種類を放飼し、立体的に見ていただけるよう展示致しております。

主な部分として、東南アジアを「サイチョウの森」、オーストラリアなどを「オセアニアの花・鳥」、南米を「アマゾンのジャングル」そしてアフリカを「フラミンゴの湖」と名付けた四つのゾーンがあり、これらはネットをかけたフライング・ケージ方式となっています。アフリカと南米のゾーンは約2,000坪もある巨大なケージです。

しかし、四つのゾーンだけでは見ていただきたい動植物のすべてをお見せするには充分ではありません。そこで以前は農業用のダムだった池に島を配したりし、園路ぞいを含めサボテン峡谷、パンパスの草原、リヤマの丘、マダガスカルの入江、アフリカのサバンナ、アフリカの乾燥荒原などのゾーンを設け、珍しい動物の自然に近い姿や、植物が一種でも多く見ていただけるよう配慮しました。

さらに沖縄でよく知られているオオゴマダラ、リュウキュウアサギマダラ、ツマベニチョウなどの美しい蝶が飛び交い、花の蜜を求めて集まる情景を見ていただこうと、それらの密源植物や食草も園内に植栽されています。

国道58号線に面したゲートをくぐると、広い駐車場の左前方に世界最古、北アフリカのタッシリ遺跡を模した岩山の建物が見えます。巨木(擬木)で出来た橋を渡って洞穴の中へ。建物はメインハウスと呼ばれ、ここが公園への入口となります。

それではそろそろ園内を順を追ってご説明申し上げます。

メインハウス メインハウスの2階が展示場となっており、ここを通り抜け園内を一巡し、1階(売店)に戻っていただく一方の順路が設定してあります。全長は約1.4kmです。園内を見てください。

プロローグとして、2階展示場では化石をご覧になりながら、地球上の生物の変遷を知っていただけるよう、約250点の標本による特別展「化石の語る生物の進化展」を行っています。

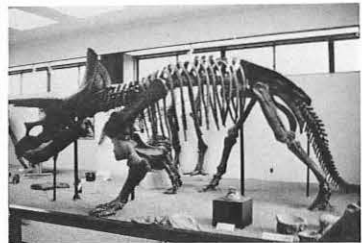
コレクション・ゾーン 園内巡りのスタート地点。県花のデイゴ、民話によく登場するガジュマル、古代植物の名残りとどめるソテツ。これらの植物の仲間を世界から集め、沖縄ゆかりの植物に因んだコレクション・コーナーとしました。また、園路ぞいの木造舎には南米の小型のサル、ワタボウシタマリンとシロガオマーモセットたちが見られます。

サボテン峡谷 急な斜面に岩組みをし、メキシコを中心とする中、北米のサボテン類をはじめとする珍しい多肉植物や、タル形植物など乾燥地の植物が、原産地に近い景観となるよう植栽してあります。

パンパスの草原、リヤマの丘 南米のススキの仲間、パンパスグラスが生い茂る草原にレアが走り、小高い丘の草陰ではゲッコウ類のマウラの親子が休んでいます。

水辺にはクロエリハクチョウやチリフラミンゴと南米のカモ類、林の下の崖には自ら巣穴を掘って抱卵中のルリゴンゴウインコの色鮮やかな姿が、そして遠方の赤土の裸地にイノシシの仲間クビワベッカリの家

族が遊んでいます。ここは、のどかなアルゼンチンのパンパ(草原)を想定してつくられたところ。一方、園路の反対側は険しい岩の丘。南米の多肉植物が植え込まれ、その頂には青空に浮き出すようにたたずむラクダ科のリヤマの群がおり、そしてその先には稀少種のダーウィンレアの餌をついばむ姿もみられます。



サイチョウの森 ここはサイチョウ類をはじめ12種約100羽の鳥たちとインドオオコウモリ、カメなどのいる東南アジアの熱帯林。

くちばしの上にオレンジ色の奇妙な形の突起をもつボルネオサイチョウとオオサイチョウ、カササギサイチョウの3種が羽を立って樹間を飛び回ったり、夕方になると対岸の松の木にぶら下ったインドオオコウモリたちがエサ台に飛んできます。

オセアニアの花・鳥 広がりある空間に、パンクシアやユーカリ、アカシアなどの花木、ナッツで有名なマカデミア、そしてススキノキなどオーストラリアを中心としたオセアニアの植物が植えられ、12種類の鳥と動物たちが暮らしています。

ニューギニア原産の世界最大のハト、ビクトリアカンムリハト、対比的に小さい方の代表ウスユキハトがご覧になれます。

木々の間を縫ってキンショウジョウインコが矢のように飛び交い、広場にはオーストラリアの走長類エミューと小型のカンガルーの仲間ベネットワラビーやパルマワラビーと一緒に走り回っています。

マダガスカルの入江 入江に浮かぶ3つの島と山手の斜面には、マダガスカルだけに生息する原猿類のレムールたち4種が暮らしています。レムール中最も大型のエリマキレムールやクロレムール、ワオレムール、シロガオレムールたちです。

動物のほとんどが固有種といわれるマダガスカル、その植生を現地調査により導入した植物を中心に再現しています。南部だけに分布するディディエレア科のアルオーディアの仲間を中心に、パキボディウム、モリガ、バオバブなど多くの植物群……。

アフリカのサバンナ 果しなく続く草原に木々が点在するサバンナは、多様な種類の草食動物を育てています。サバンナの動物たちが決ってやってくる水場で繰りひろげられる様々な光景を、池の水を飲みこくアミメキリンやウシ科のエランド、ウォータールバックと水浴をするダチョウの姿などから、かい間見ることが出来ます。

リスザルの島 池に浮かぶ最も大きな島に中南米に分布するオマキザル科の2種、クモザルとリスザルが仲良く生活しています。リスザルは約40頭の群をつくり、背中に赤ちゃんをおぶった10数頭の母親の姿もみられます。

アマゾンのジャングル ここは南米熱帯の動植物の世界。25種類の鳥と12種類の淡水魚、世界最大のゲッコウ類カピバラやフタユビナマケモノなどがおります。好奇心の強い鳥たちが多いのもこの特長。ホウカンチョウやラッパドリが足元に寄ってきたり、当園人気ナンバー・ワンのオニオオハシがいきなり肩や腕にとまってきたりします。

当園独自の水中トンネルがあるのもこのゾーン。中に入るとアマゾンの主、世界最大ともいわれる淡水魚ピラルクーが悠然と眼前を通りすぎ、頭上に群れ泳ぐコロソマの姿もみられます。ナマケモノが主食とするクワ科のセクロピアやマメ科のエネルギー植物コパイフェラなど珍しい植物も集められています。

フラミンゴの湖 本園最大の6,600㎡のフライングケージ内には大きな池があります。ここではオオフラミンゴとコフラミンゴの群れが採餌したり巣づくりをしたりしています。時折水面を蹴るように助走して一斉に飛び立つ姿もみられます。珍鳥クラハシコウの雄大な飛翔や、クロトチやトキコウの巣づくり風景にも出会えますし、エボシドリが給餌時間にキーパーから直接採食する光景をカメラにおさめることも出来ます。21種200余羽の鳥たちが棲み分けをして平和に暮らしています。

水辺に茂るのは古代エジプトで最古の紙の原料にされたパピルス、園路ぞいには南アフリカの有名な花木プロテア類や宝石のカラット(0.2グラム)の起源となった分銅代りのマメをつけるイナゴマメなど話題性のある植物を、ここにも集めました。

駆け足で園の紹介をして参りましたが、誌面の都合で割愛させていただいたところも多分にあります。「百聞は一見にしかず」、遠い亜熱帯の島の都市型の動物園とは趣の全く違う当園へ、是非お出かけいただければと思います。



私は、今年の4月突然の転勤で天王寺動物園にやってきました。10年ぶりの新人獣医です。以前の職場は、南港にある食肉衛生検査所で、食肉の安全確保のためと畜検査をしていました。獣医師の仕事としては180度の転換だと言えます。

獣医師にも大学卒業後、犬猫病院のお医者さん、牛や馬など大動物専門の獣医、製薬会社の研究者、環境食品衛生監視員、中学・高校・大学の先生などの道があります。

その中で動物園の獣医という職業は、獣医になるうと考えた人が一度は夢にみるものだと思います。私もその分にもれず、学生時代、確か2年生の頃だったと思いますが動物園の獣医に憧れました。

しかし、現実はそのなかに甘くはなく私の夢のまま心の底で眠ってしまいました。それが今年の春日覚めたのです。夢が現実になりました。これこそラッキー！のなにもものでもないと思いました。でもその反面、長い間眠っていた夢を起すには時間がかかるだろうし、夢の中の動物園と現実の動物園とのギャップに悩むだろうと不安でした。動物園の動物達や動物園で働く人達とはうまくやっていたかとか、数えきれないほどの野生の動物の名前や彼等の病気とその治療方法を覚え実際にできるのかなどという気持ちで一杯でした。一応獣医学は修めましたが、大学で勉強するのはほとんどが牛や馬などの家畜か犬や猫などのペットのことで、野生動物のことなど一切習わず、ましてやその病気と治療など皆目見当がつかせませんでした。

しかし、その不安な気持ちを幾分打ち消してくれたのが2ヶ月にわたる飼育研修でした。飼育研修というのは新人としてきた獣医にとって実際の動物飼育とはどんなものかを肌身で知ることのできる最初で最後の機会なんです。研修が終わればすぐに獣医本来の仕事である検査や治療などが待っています。この研修で私は天王寺動物園にいるほとんどすべての動物達とそれを担当する飼育係の人達を知ることができたのです。

研修はトラ舎から始まり、夜行性動物舎、鳥の楽園(バードケージ)、ライオン・オオカミ舎、ヒョウ・ヤマネコ舎、サイ・タスマニアデビル・アメリカバク舎、小獣(キツネ等)舎、走鳥舎、バーバリシブ舎、アシカ舎、フラミンゴ舎、カバ舎、ゾウ舎、ツル舎、キリン舎、オランウータン・チンパンジー舎、ラクダ・ラマ・カンガルー舎、小鳥舎、ヒビ・



朝一番シマウマさんとごあいさつ

サル舎、キジ舎、ホッキョクグマ舎、ペンギン舎、カモシカ・シカ舎、コアラ舎、ゴリラ舎、爬虫類舎で終わりました。

飼育研修の1日は、まず動物達の元気な顔を確認したあと屋外展示場に出すことから始まります。そして一晩寝ていた寝室を注意深く観察しながら掃除をしていきます。特に注意して見るのは糞便と餌食いの状態です。もちろん1日中屋外に展示されている動物達も朝一番に異常がないのを確認します。

次に朝食の準備です。それぞれ担当の動物の餌を作り集まった飼育係の人達でござつがえす調理場で私も腕を(?)ふるいました。飼料には馬肉や鶏肉などの肉類、鯉やどじょうなどの魚類、白菜やトマトなどの野菜類、リンゴやバナナなどの果実類、穀物類など様々な種類があります。動物園の動物達はいいものを食べてるなあなどと考えていて、慣れない包丁でちょっと指を切ったこともありましたが、餌作りを経験したことで動物の種類や年齢による餌の違いや、切り方の違いもわかりました。

草食獣は草食獣で、肉食獣は肉食獣で飼料の種類はよく似ていますが、それぞれにちょっとした工夫があります。たとえば、手先の器用なカンガルー・サルなどは餌を手を持って食べるので他の草食獣と違って野菜や果物をちょっと細長く切ってやります。また、同じ果物を食べる鳥でもその種類によって剥いてやったり切ったり様々です。



危ない手つきで朝食の準備

餌作りのあとは給餌です。決まった場所に動物達の状態にあった量の餌を置いていきます。餌が待ちきれずすぐに寄ってくる動物や私が餌を置いて去るのを確認してから食べに来る動物など様々です。餌を食べている動物達を見て思います。彼らは幸せだなあと。自然環境に生きる野生動物にとっては食べること、餌を確保することが一番重要で大変なことだからです。人間も同様で、この時間になると私のおなかもグーグー鳴り出します。

昼食のあとはミーティングをしたり、動物を観察したり、動物舎の手入れをしたり、夕食の準備をしたりしなければなりません。そうこうしているうちに動物達を動物舎に収容する時間がやってきます。なかなか動物舎に入らない動物もいます。でも、それにはなんらかの理由があります。研修中オオカミがそうでした。原因は私でした。オオカミ達にとって私は赤の他人で、なんで知らんヤツが僕らの家に入ってんねんというところでしょう。私が動物舎の外

に出るとあつという間に寝室に入りました。

動物達が収容できたら屋外展示場の掃除をします。朝と同じ様に屋外展示上をくまなく見て回り、収容した動物を観察し異常がなければ、最後に檻の鍵と動物舎の戸締まりを確認して飼育研修の1日が終わります。飼育研修中の1日1日はもの凄く短く感じられました。

研修でいろいろなことを体験し学びました。その中で特に心に残るのは、ある飼育係の人の言葉でした。「人間に動物を選ぶ権利はない。動物が人間を選ぶのだ。」

オランウータンのサブは3歳のオスでまだ飼育係の人が手渡しで餌を食べさせています。サブは私を結構気に入ってくれたようで、うまく餌を食べてくれました。チンパンジー達もおとなしく私の手からミルクを飲んでくれました。とはいっても、横に飼育係の人がいるからでしょうが。



朝食中カメラを意識したサブと私

しかし、そううまくゆく動物ばかりではありません。たとえばサイチョウとゴリラがそうでした。

私がサイチョウに餌をやる時のことです。初めのうちはおとなしく手渡しで餌を食べていましたが、突然あのでっかい口で指を噛んだのです。そればかりではなく私の頭をつついたり噛み付いたり、しまいには翼でどつかれたりしました。後で飼育係の人に聞いたのですが、もともと鳥類はメガネを嫌う傾向があるらしいです。なんでも人間が掛けるメガネ全体が目に見えるらしく、それに恐怖を覚えるとか。

ゴリラの時はもっと悲惨でした。ゴリラ舎に一步も入れなかったのです。他の動物もそうですが、動物の目をじっと見つめてはいけなかったのです。それを知らずに目と目でお互いわかり合おうとじっと目を見つめていたのです。しかも、まだ入園者のいない9時過ぎにです。ゴリラにとって私という人間は何か自分に危害を加える動物に見えたみたいです。それからは、ゴリラに会いに行ってもガラスを叩いたり、プールに飛び込んだり、土を投げたり、私に対して怒りの行動を示します。

オランウータンやチンパンジーでついた小さな自信が音をたてて崩れていきました。大変悔しい思いをしましたが、結局それらの動物と私との相性の問題だったみたいです。獣医である私は簡単に相性の問題で済ますことができますが、毎日顔を合わせる飼育係となるとそうはいきません。飼育係の仕事の

上でこれが一番難しい問題なのかもしれません。

このように貴重な体験ができた飼育研修を終えて現在は動物の治療など獣医本来の仕事のための病院研修を受けています。研修といってもいわゆる本番です。毎日が驚きの連続です。



私と相性の悪かったゴリラのゴロー

特にビックリしたのは保護動物の多いことです。今の時期は特に多く、中でも野鳥はかなりの数が保護されてきます。これは春から夏にかけてが野鳥の産卵、ふ化、巣立ちの時期だからです。巣から落ちて元氣のないもの、病氣や怪我をしているものなど様々です。差餌や治療の末、回復したらその野鳥にあった自然に放します。この機会に恵まれて、能勢まで保護野鳥を放鳥しに行ったことがありました。元氣になって飛んで行く鳥の姿は美しくとても感動しました。

このほか、ペットとして飼われていた野生動物も保護されて来ます。この間、飼い主に捨てられたニホンザルや飼い主の目を盗んで逃げ出したアライグマが来ました。飼い主は責任を持って飼ってもらいたいものです。



動物病院で治療中の保護されたゴイサギ

動物園には数多くの動物があり、その病氣も骨折、咬傷、寄生虫病、消化不良など多岐に渡ります。動物の治療は獣医と飼育係の共同作業ですが、動物にとって痛い思いをさせるのは結局獣医です。ちょっと損な気もしますが自分が選んだ道ですから、いかなる病氣にも対応できる動物園獣医師になりたいと思います。それが私達獣医師にかせられた義務だと思っています。

(飼育課：獣医師・竹田 正人)

☆ マントヒヒはどうしてオスとメスがあんなに

大きさが違うのでしょうか

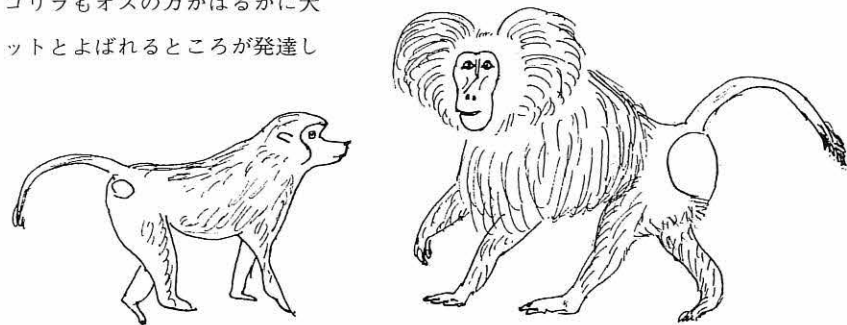
よく気がつきましたね。動物にはマントヒヒと同じように、ずい分オスとメスの大きさや形が違うのがあります。

オスのはるかに大きいこのような動物のほとんどは一夫多妻の動物です。ハーレムということばを使いますが、有名なものにはその他オットセイやヒビの仲間がいますし、ゴリラもオスの方がはるかに大きく、頭部のヘルメットとよばれるところが発達し

ています。反対に一夫一妻の生活をしているテナガザルは体の大きさには差がありません。

私達が動物園でも観察できる体の特徴等を用意してみると、その動物達の生活を知るヒントが見つかるかも知れないと思います。

(回答：大野 尊信)



☆ オスニワトリの大きなトサカは、一見無駄なもののように

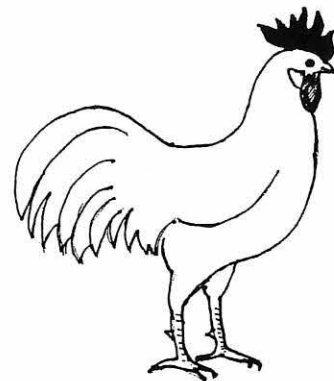
思いますが、どんな役目があるのでしょうか

よくメスだと言われて買ってきたヒヨコが、大きくなるにつれ、赤いりっぱなトサカが発達してきてその内大声で鳴くようになり、オスだったということが分って、困っているという相談が動物園にもきます。このようにトサカはオスがオスらしさをしめす大切な役目があります。自分が一番りっぱなオスだということを現わしているわけです。

鮮やかな赤色の大きなトサカをもって、首を一杯に伸ばしてコケッコーと大きな声で鳴くオンドリの姿は近所迷惑ですがたのもしいものです。

こんな姿をみて、ある民族はニワトリを神様だと崇拝していますし、日本人になじみの深いチョンマゲも実はニワトリのトサカだという話があります。

(回答：大野 尊信)



§ クロサイの交換

8月21日、クロサイの“さい太”が名古屋市東山動物園へ婿入りしました。

日本動物園水族館協会の種保存委員会では希少動物の繁殖に力を入れており、近親交配を防ぐため各地の動物園で飼育されている希少動物を積極的に交換することを提案しています。

この計画にもとずき当園生まれのオス“さい太”(6歳)を名古屋市の東山動物園のメス2頭のところへ送り、当園へは広島市安佐動物公園生まれのオス“トミー”をむかえるという計画が実行に移されました。

クロサイは日本国内の動物園ではわずか12頭しか飼育されておらず、野生でも3,000頭以下しか生息していないという希少動物で飼育下での名古屋市東山動物園へ送った“さい太”繁殖が強く望まれています。

“さい太”は昭和58年7月に当園で日本で初めて飼育下での3代目の子供として生まれました。あいにく父親が死亡したため、母親の“さっちゃん”と2頭だけで飼育されてきました。“さい太”も6歳になり性成熟に達し、近親交配を避けるため新たなオスの導入が望まれていました。

大きな動物の搬出はあまり多くないので、慎重に搬出作業は進められました。搬出1週間前の8月14日に輸送用の檻がサイ舎の運動場に設置され、檻に慣らすため毎日餌は檻の中で与えました。輸送当日は午前中に無事、輸送檻に収容することができ、暑さを避けるため夕方“さい太”は名古屋へ出発しました。一方新しいオスは9月18日に広島から来園しました。しばらく見合せさせた後に同居させる予定ですが、今回の繁殖計画が早く実り、当園と名古屋の両方の動物園から赤ちゃん誕生のニュースをお知らせしたいものです。

§ ブラックバックの赤ちゃん誕生

ブラックバックの赤ちゃんが8月16日、18日と相次いで生まれました。ブラックバックの赤ちゃんは今春は2月1日のメスの

8月16日生まれのブラックバックの赤ちゃん誕生を皮切りに5



現在の飼育動物数

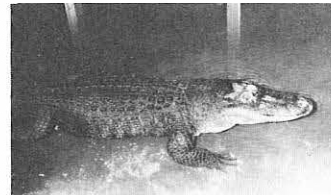
平成元年8月31日現在			
哺乳類	12目	102種	450点
鳥類	20目	192種	703点
爬虫類	3目	34種	81点
合計	35目	328種	1,234点

月26日まで5頭(オス3頭、メス2頭)が生まれましたが、ブラックバックの妊娠期間は約180日です。今年2回目の繁殖に入ったことになり続いてまだ何頭かは生まれそうです。

§ ミシシッピーワニの死亡

昭和24年9月に来園の最長寿命動物であったミシシッピーワニのメスが残念ながら老衰で死亡しました。

来園当時、推定1歳の子ワニだったこのミシシッピーワニは体長2.5m、体重80kgに成長し、国内では最高の39年11ヵ月の飼育記録を樹立しました。



死亡したミシシッピーワニ

§ タスマニアデビルの死亡

8月15日、タスマニアデビルのメス“ミミ”(推定8歳)が乳腺癌で死亡しました。一昨年から3回乳腺癌の摘出手術を行ないましたが、残念ながら死亡しました。

タスマニアデビルは昭和59年に4頭(オス2頭、メス2頭)がオース

トラリアから来園しましたが、すでに昭和60年10月にメスが、昨年8月にオスが死亡しています。残るはオスの“ダイスケ”1頭になってしまいました。

◎ お知らせ

動物のお話とスライドの会
10月15日(日) 動物のあかちゃん
11月19日(日) ガイドツアー
12月10日(日) 動物園この1年
時間：午後1時～2時
場所：北園レクチャールーム
なお11月19日のガイドツアーは午後1時にレクチャールームを出発します。

§ テレフォンサービス実施中

催し物、トピックスなど魅力たっぷりの動物園の案内を24時間テレフォンサービスで行っていますのでご利用ください。
電話番号 771-9999

*** 休園日のお知らせ ***
動物園の休園日は毎月第3日曜日(休日の場合は翌日)です。11月までの休園日は下記のとおりです。
10月16日(月)、11月20日(月)、12月18日(月)
年末年始は、12月29日(金)～1月1日(月)まで休園いたします。
開園時間は、午前9時30分から午後5時までで、午後4時に切符売り止めになります。

愛ある暮らし、応援します。

Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



生態・飼育・図鑑が一つの本の 中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光/監修
B5変型判・オールカラー
定価580円

動物園で暮らす様々な生き物達、
自然の中ではどんな暮らしをして
いるのか？ 動物園での世話
の仕方は？ 仲間とは？ など、
写真と精密イラストをまじえ紹
介します。

くらしとかいかたシリーズ<既刊本>

B5変型判・オールカラー・各定価580円

むしくらしとかいかた

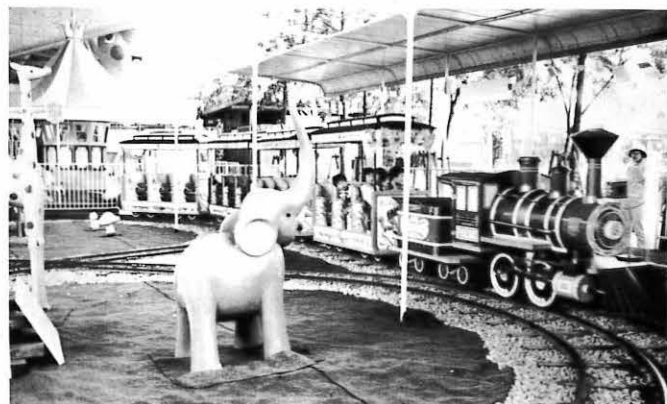
野山でみかける身近な昆虫たち
250種を紹介。

ちいさないきものくらしとかいかた

昆虫以外の小さな生き物を320
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 ひかりのくに株式会社 本社/〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表

たのしいのりものが待っています。



1人1回
100円
(1才まで無料)

団体割引
(30人以上)
……1割引

久竹娛樂株式会社
TEL(06)541-3938(代)

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりものがあります。

オートフォーカスカメラに



フジカラー SUPER HG 400

ピントが合いやすいフィルムです

カラの大林

桜橋本店 ☎341-8091
三番街店 ☎372-5031

平岩米吉著

絶賛三版 猫の歴史と奇話

(定価・2800円)
送料・310円
A5判・260頁
口絵挿画・113図

猫に関する古今東西の科学と文献を網羅し、しかも平易な文章で綴った猫の宝典。著者の三十余年にわたる収集研鑽の成果、ここに結実。

☆学術書でありながら、推理もののように愉しく読める猫の本
☆架空の伝説は別に、猫の珍しい実話400余を収載

主な目次

- | | |
|-------------------------------------|---------------------------------------|
| 第一章 猫の歴史
欧州は古代エジプト、日本は宇多天皇から近世まで | 第二章 猫股伝説
老猫化けてさまざまな怪異をなす |
| 第三章 猫の報恩談
蛇を咬んだり、金を運んだりする | 第四章 野性猫の存在
裏日本の山猫、離島の山猫、鬱陵島の猫の渡来など |
| 第五章 猫の奇話(上)
長命、多産、三毛猫などの形態の奇話 | 第六章 猫の奇話(中)
長距離の帰家記録や鼠を育てるなど不思議な行動 |
| 第七章 猫の奇話(下)
マタビを媚薬とする奇妙な習性など | 第八章 益獣としての猫
あらゆる角度から猫の生態と効用を探究 |

発行 動物文学会 〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2 電話(03)717-1659・振替東京5-9800 発売 (株)池田書店 東京都新宿区弁天町43番地 振替・東京4-165425

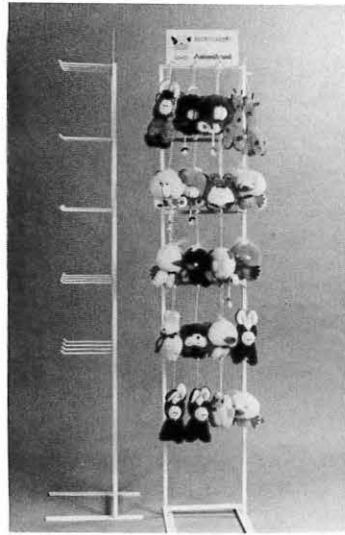
コアラテレホンカード(限定販売)
好評発売中 ¥800 (50度用)



- 貸出品目/ビデオ「動物園へ行こう」
①巻・20分(10本常備)
- 対象/保育園、幼稚園、小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し、郵送料450円は必要)
- 申込先/当協会まで、電話かハガキでお申し込み下さい。

大阪市天王寺動物園協会

〒543/大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

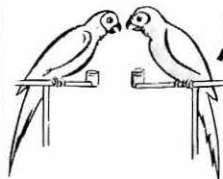


動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

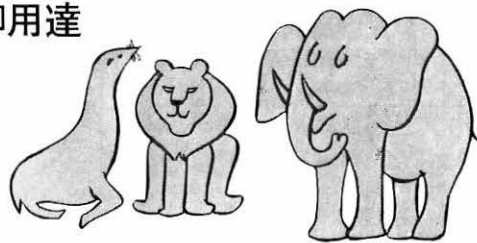
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号
TEL : (06) 704-8580
FAX : (06) 704-8565



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円

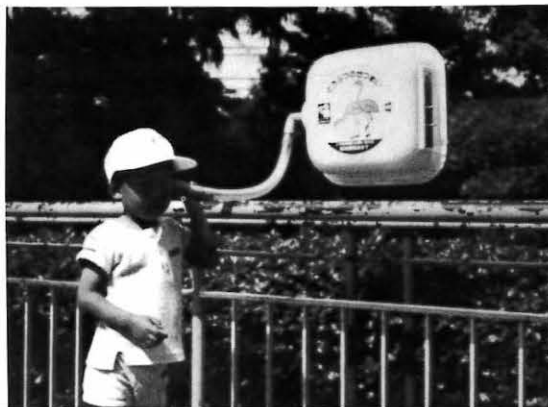


有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

たのしい動物のお話は、 ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数カ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

動物園内での お食事、ご休憩は

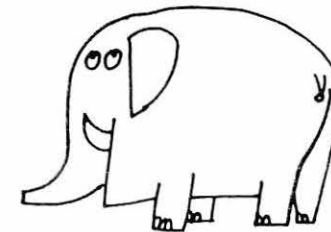
大阪市天王寺動物園内

中央売店

☎ (06) 771-0973



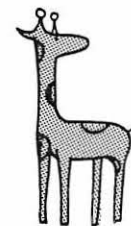
天王寺動物園内



南園売店

大阪市天王寺区茶白山町6-74
電話 (06) 771-7110番

園内でのお写真は… 動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して
おりますのでご説明
に伺いました際は、
よろしくお願い致し
ます。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせて戴きます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社
TEL 06-856-7444



雪印乳業

唯ちゃんも、
とってもゼリーも、
ますます成長しました。



浅香 唯

とってもゼリー



とってもオレンジ



とってもピーチ



とってもキウイフルーツ



とってもキウイフルーツ



とってもマンゴット



とってもパイナップル

野生動物をみんなで守ろう

WE SUPPORT WILDLIFE!

天王寺動物園協会の売店に“WWF国際保護動物ぬいぐるみコーナー”が新設されました。このぬいぐるみの売上げの一部はWWFJ(世界野生生物基金日本委員会)に寄付されます。すばらしい野生動物を私たちの手で大切に守りましょう。

ぬいぐるみ販売コーナー新設

お申込み、お問い合わせは——

社団法人 大阪市天王寺動物園協会
(天王寺動物園内) TEL (06) 771-0201

株式会社 ファミリア商事部
TEL (078) 321-0345

- お電話でのお申込みは動物園協会まで。
- なお、郵送の場合は実費を負担していただきます。



●WWF(WORLD WILDLIFE FUND)とは?
世界野生生物基金。世界中の危機に瀕している動物たちと、その自然環境を保護するための機関です。



なきごえ 1989年10月10日発行 (毎月10日発行) 第25巻 第10号 (通巻290号)

編集/大阪市天王寺動物園

発行人/大阪市天王寺動物園協会 橋本一郎

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共) 1年継続(12部) 1,100円(送料共)

編集委員

(伊東重朗 / 藤野勝吉 / 中山良三郎 / 樽本 勲 / 中川哲男 / 齊田 尚 / 宮下 実 / 長瀬健二郎 / 神原安昭)
森本委利 / 大野尊信 / 野口秀高 / 早川 篤 / 赤松 建 / 中垣圭史 / 大川光雄 / 山下賢二 / 土谷正道)

〒543 大阪市天王寺区茶白山町6-74

電話 大阪 (06) 771-0201

振替口座 大阪 37823